

も がみ がわ あてら ざわ まち は 最上川の流通・往来及び左沢町場の景観

No.06-01

所在地：山形県大江町 選定年月日：平成25年3月27日 面積：255.9 ha 選定基準：二(一)(五)(七)(八))

(1) 概要

左沢は、米沢・長井盆地と山形盆地とをつなぐ最上川の峡谷部に位置します。左沢の町场景観のうち、楯山を中心とする山稜区域には中世に大規模な山城が築かれ、左沢は政治・行政上の拠点として機能しました。市街地北部に当たる楯山では近年まで薪炭材等を供給する里山として機能し、現在もコナラ・クヌギ等の二次林が自生しています。

また、最上川を中心とする河川区域では、歴史的に河川舟運や漁業などの生活・生業が営まれました。幕末に大規模な築(やな)が設置された記録が残るほか、近代には茶屋が置かれ船頭衆で賑わいました。

さらに、町場が展開する市街地は、17世紀前半に左沢藩主となった酒井直次により小漆川(こうしきがわ)城の設置や城下町の造営が行われ政治都市として機能しました。他方で、近世に米沢藩の蔵屋敷が設置されるなど河岸が発達したことにより、山間部で産出された青苧(あおそ)などの取引を中心とする最上川舟運によって町場が展開していきました。近代には鉄道敷設に伴い駅前に新たな市街地が発達したほか、昭和11年の大火を受けて、近世以来の地割りを継承しつつ道路拡張が行われるなど、時代に応じて展開した町場の計画的な街区構造が重層的に表れています。

このように、最上川の流通・往来及び左沢町場の景観は、最上川河畔における政治都市と河岸集落という複合的な都市機能を示しつつ、中世から現代にかけての各時代の都市構造が重層した文化的景観です。



楯山城から望む左沢の町場



最上橋と最上川船着場の近傍



初市をむかえた中央通り商店街



近世にさかのぼる原町通

（２）選定範囲



- ・ 重要な構成要素：36件
- ・ 国指定等文化財：左沢楯山城跡（史跡）

（３）選定による効果

大江町では、文化的景観の保存整備やワークショップ、イベントを通じて、地元の景観の魅力を再発見するとともに、ここで育った自身に誇りを持つきっかけとなっています。

選定後は、個人等が所有する建築物の修理が喫緊の課題であったことから、整備計画1（建物整備計画）を策定し、これに基づき修理を進めています。整備計画の検討の一環として、建築物の継承や特徴を考えるワークショップや絵画コンクール等を開催しました。

また、町歩きしやすいようにサイン整備をすすめています。整備にあたり「あてらざわ10このひみつ」と題したイベントを開催し、参加者が興味をもったポイントやサインについて意見交換を実施しました。



絵画コンクール受賞作品



「あてらざわ10このひみつ」参加風景

（４）保存活用計画などの基礎情報

- ・ 保存調査報告書（平成24年3月、大江町）
- ・ 左沢町場の景観 保存活用計画（平成24年7月、大江町）
- ・ 整備計画1（建築物整備計画）（平成27年3月、大江町）
- ・ 整備計画2（サイン計画）（令和4年1月、大江町）
- ・ ホームページ <https://www.town.oe.yamagata.jp/kanko-event/kankou-bunka/bunkazai/>

（５）活用事例

事例06-01 ①

建物を含めた、所有者の案内が得られる「大江のひなまつり」

文化庁補助金

●行政と住民等の協働による取り組み

大江町は、最上川舟運の中継地として栄えた歴史があります。重要な構成要素である「御免町通り」、「内町・横町通り」、「原町通り」には、商家や造り酒屋だった歴史的建築物が建ち並び、舟運時代の名残りを今に伝えています。

通り沿いにある重要な構成要素「清野家」「岡田家」は経年劣化による建物損傷が進んでいたため、所有者の意向を踏まえつつ、整備計画1（建物整備計画）に沿って修理が行われました。

「清野家」「岡田家」は毎年3月下旬に開催される「大江のひなまつり」展示会場となっており、所有者が建物やひな人形の解説を担当しています。

団体等情報：大江町観光物産協会
<https://oekanko.jp/>

ひなまつり来場者の声（地元住民）

大江のひなまつりの特徴は、家主の方からの説明を受けながら古来の貴重なお雛様を見られるところにあると思います。昔の様子が偲ばれ、地元の魅力を再発見できます。



大江のひなまつり「清野家」



大江のひなまつり「富士屋（岡田家）」



清野家の修理の様子



富士屋（岡田家）の塀の修理後の様子

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
目標の共有

③ 地域外への
広報

④ 魅力を
引き出す

⑤ 財源の
確保と運用

⑥ 人づくり・
育

(5) 活用事例

事例06-01 ②

若者も集う、交流施設として活用「まちなか交流館ATERA」

●行政と住民等の協働による取り組み

重要な構成要素「旧きらやか銀行大江支店」は、昭和初期建てられた貴重な鉄筋コンクリート造建築です。外観はモダンな洋風装飾で、内部は分厚い扉の金庫室があるなど、銀行の名残が感じられる建物です。

平成25年に町に寄贈を受けた後、地元住民・大学生・行政関係者で検討を重ねた結果、地域内外の人々の交流の場として整備を行い、「まちなか交流館ATERA」として、平成30年5月にオープンしました。整備には、地方創生拠点整備交付金を活用しました。

現在、1階はカフェコーナーとして打合せやネットワークなどに利用され、2階のラウンジ及びレンタルスペースとして利用されています。

この他にも運営団体では、マルシェやモノづくり体験、地元の大学生・高校生と共催してイベントを実施しており、若者をはじめとした地域の住民との交流が生まれています。

団体等情報：まちなか交流館ATERA
<https://atera-oe.jp/>



まちなか交流館ATERA



地元高校生とのコラボメニュー（パングラタン）



大学インターン生活報告会



運営団体発行 アテラ通信

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
目標の共有

③ 地域外への
広報

④ 魅力を引き
出す開発

⑤ 確保と運用

⑥ 人づくり